

# 「火の用心だより」

第105号(令和5年12月)

発行：札幌市消防局予防部予防課

## 大掃除と一緒に火災を一掃！

師走に入り、年の瀬が押し迫ってきました。年末に向けて、大掃除をされる方も多くいるのではないのでしょうか。今回は、清掃を行うことで防ぐことができる火災事例をご紹介しますので、この機会に確認しましょう。

### こんろの汚れ

魚焼きグリルの油汚れの清掃を怠ったことで、使用時に油汚れに着火した。



### コンセント周りのほこり

コンセントに差し込まれたプラグ部分でトラッキング現象(※)が起き、コンセント周りのほこりに着火した。



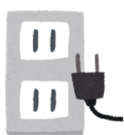
(※)コンセントに差し込んだプラグの周辺にほこりや湿気などが付着することで、プラグの刃の間に電流が流れ発火する現象。

その他にも、次のチェック項目を参考にして、大掃除の機会に火災危険箇所も一掃しましょう。

## 『大掃除と一緒に火災予防！火災危険チェックシート』

※ 1つでもチェックがあると危険ですので改善しましょう！

### ①電気



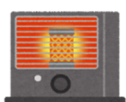
- コンセント周辺にほこりがたまっている
- たこ足配線をしている
- 複数もしくは長いコードを束ねている
- コードの上に家具を配置している

### ②こんろ



- こんろやレンジフードが油まみれ
- こんろ周りに物が置かれている
- こんろの火が壁に接している
- ガスのゴムホースが損傷している

### ③ストーブ



- 加熱部分や空気取り入れ口にほこりがたまっている
- 給油する燃料容器を近くに置いている
- 衣服やタオルを近くに干している

### ④スプレー缶・ガス缶



- こんろや暖房器具周辺に保管している
  - 密閉空間でガスを抜いている(※)
- (※) 札幌市の家庭ごみの回収では、中身を使い切って、穴をあけずに出してください。

# 住宅用火災警報器の点検を！

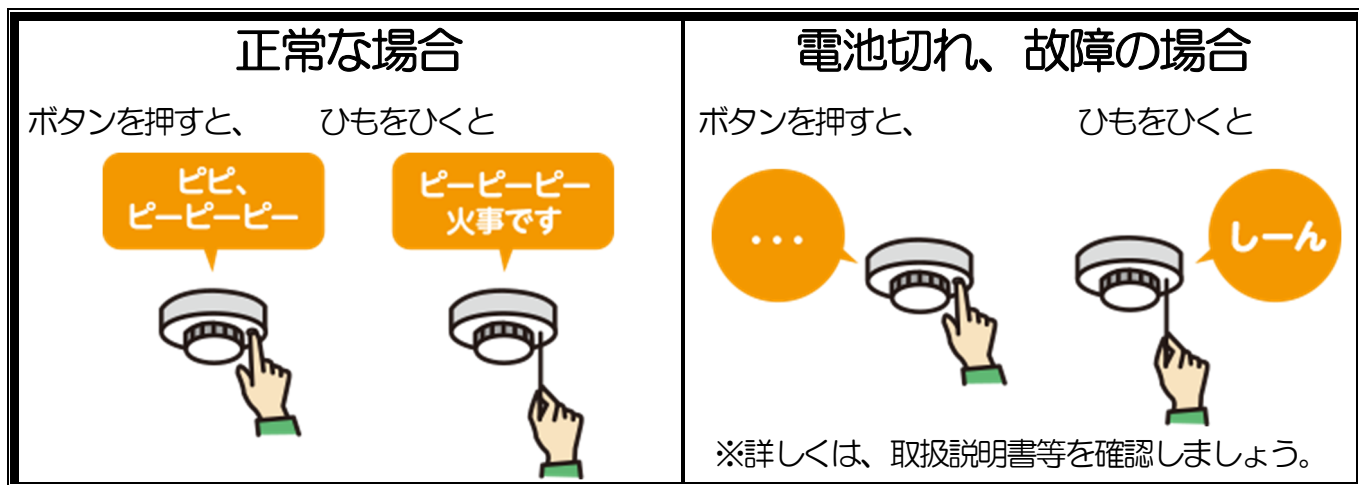
大掃除では、火災危険のある場所の確認だけではなく、「**住宅用火災警報器**」の点検も行いましょう。

住宅用火災警報器は、火災をいち早く知らせしてくれる大切な機器です。しかし、電池切れや故障していた場合には、火災が起きても警報が鳴りません。

点検ボタン（ひも）を押す（引っ張る）ことで、機器に異常がないか点検することができますので、大掃除にあわせて行いましょう。

また、住宅用火災警報器は天井や壁の高い位置に設置しているため、高齢な方などは点検が難しい場合がありますので、実家に帰省する際には、お子さんなどが手伝って点検を行うようにしましょう。

## ●点検の方法



## ●交換の目安について

住宅用火災警報器は、**10年を目安に交換**を推奨しています。電池切れだけではなく、内部のセンサーなどの寿命により火災を感知しなくなる可能性があるためです。

交換を検討している場合、「連動型住宅用火災警報器」がおすすめです。連動型は離れた部屋で火災を感知した場合でも、家中すべての警報器が鳴るので、家の中にいる全員に火災を知らせることができ、早期に避難や初期消火を開始できます。



### 市民が主役の火災予防

- ① 火災予防行事・活動に参加しましょう
- ② 火災予防の知識・行動要領を身につけましょう
- ③ 消火器などの防災機器を備えましょう
- ④ 防災品を使用しましょう
- ⑤ 防火されない環境をつくりましょう
- ⑥ 火災から高齢の方などを守りましょう

発行：札幌市消防局予防部予防課

〒064-8586 札幌市中央区南4条西10丁目

☎011-215-2040

SAPPORO

